



綾錦卷之中

沾涼緝

那名の一字を露言に洗うるよし

色をぬせ 濁しをくたる 花の香 露沾

白紅今ぬく 沾涼よ 百福壽序略前

此一字 廣く出うえとくらしり 全

賜沾字の時 六のまかのの彩ありも

十分にくる 何ふそくや 夏菴波 沾涼

露をぬく 一字を送るよし

飛石の固めや 今分の花標 露沾

花月 那の一字を送る

世の是も 雨霞と走り ひとり人 全

○江都當時宗匠

次第混雜

凡風々々、隣へ居て、柳一の如
 天津橋時乃、弓より、以て多母大工
 乱まて、鬼子降、天下乃堂地
 又、花に、さる、海の日なり、月今有
 一節、の、滝乃、さる、と、や、ひ、先、の、花
 早し、女と、活き、と、誇、ひ、見、ぬ、を、の、を
 花も、枝も、万葉、より、を、東、方、通
 幸、崎、の、松、を、あ、ら、ぶ、子、天、の、川
 梅、く、や、つ、ま、く、志、の、女、井、乃、煙
 冬、時、や、昔、の、や、ら、の、ま、は、上
 貞佐
 和推
 不扁
 青^前娥
 今更
 水国
 來川
 陰威
 貞山
 超波
 百洲
 倫里
 當国
 湖十
 史登
 一漁
 批翁
 山夕
 沾洲
 周竹
 千翁

鯨、目、不、便、子、又、中、の、月、今、如
 とも、ホ、一、の、吉、原、披、せ、存、此、月
 凡、終、此、古、歩、を、待、あ、つ、は、る、素
 初、雪、や、一、雪、の、細、乃、さ、る、の、を
 月、尺、聖、の、物、と、和、めて、寺、公、の、の
 とも、の、書、や、作、聖、二、亦、同、子、是、え
 馬、の、唇、側、く、一、口、か、き、の、を、い
 帆、柱、子、一、夜、の、夜、一、本、由、乃、川
 ふ、も、川、を、刷、毛、塗、く、し、紅葉、鮮
 水、多、に、さ、る、と、負、な、り、と、い、ひ、鯉
 兼、も、流、を、惹、も、さ、る、の、て、ら、の、菊
 貞佐
 和推
 不扁
 青^前娥
 今更
 水国
 來川
 陰威
 貞山
 超波
 百洲

吹とくく〜一室の庵けのな葉外
 文藏學に福のぬ浪や水の雪
 竹懸や一葉の葉そよ〜時高
 青梨や雪の下りあのみ香
 水伝の水際鳴り〜そよこ鳥
 〴〵や程石會乃力葉北家
 案のしる貝のたも〜と下り菊
 維のぬぬ田〜やと保、崎
 馬埃の佐聖の流りの異心外
 小舟中も所 姫門あり 郭云
 外の花は夜とま〜と厚の都の

壽角
 沾山
 乾竹
 壺月
 露牛
 常仙
 尾谷
 逸志
 舞山
 成屋
 永機

臨つゝ疎火北〜かげり春のみ
 葉一葉や 梅水伝のみか
 名月〜とゆふの通て 枕ふ文

沾涼
 風堂
 潭北

右乃句〜の得〜あり 指〜あり 以才〜
 其越く〜あり 葉よ 好差列〜

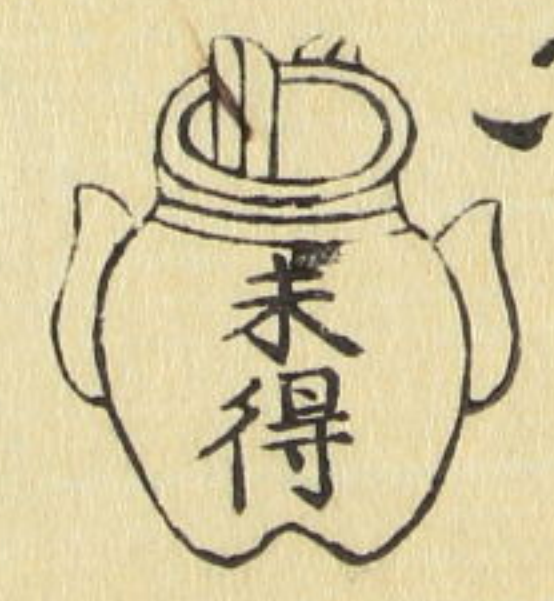
○古來点取乃卷を得きり其点乃を
 白ノ此品を字〜二ニ軸のに記

寛永頃 乾堂未得点

割 字いふい〜や華つ虫 可入
 字乃たよ里と 林此 螢火 正勝

刺札 竹ノ月ノ入江ノ舟よき
 泉名を 入る 今朝の 後移
 涼し 舟よ 似合 ぬ 吳服 ぬい 仕立
 と 通ひ たる 形 子 中 一 終 俗人
 振策に 柳 不 鯨 の け 喰 と
 餅 つ じ 膏 を 折 い か 中 和
 番 西 の よ く 止 る 家 の 棟 上 一
 尺 也 く い じ ぬ 毫 寸 被 治 っ 子
 翁 出 申 く 船 の 子 も 金 を ち じ 毛 猫
 一 以 百 韻 未 歎 一
 幸 粮
 音 粮
 未 音

付書 拾七
 廿月長三



・墨印

廿五白宛
 幸 粮 点十六白 也長也
 可 入 点十五白 也長也
 正 勝 点十六白
 未 音 点十白

寛文頃

松樂軒立志点 九卷

花を色じまや家ハ風流の 怒流

即西志のせ 色此 笠松 全久

おろ雪おろし 如に京も 卜入

よみきよき 争ハ 姆も 由宜

着利ぬる小袖 以 後の 宝 春室

河ハ出 形も 友 重次

おの 酒を の 務平

秋の 室中 に出 糸市立 叙情

ハ 懐ふる 處て や おろ 枕筆

親め 先い そ子ハ 宝 調和

一頃の 未略之

下 宝七拾 是句

竹門 長氣 此五

三月十日

墨印



王

王族の石草良小や衣乃駒

菊母氏

行尚

自服略

二丁七の甲

行年中主三句

只三句

有三句

秘三句

十三句

朱三

墨印



切

切参や小町のほろのり能

調和門

風堂

自服略之

解星平之

素

素三句

柳葉之批

印

歌の境

くぬくのをのふる

尺草

此句は巻の終りなり一言宗匠なり
尺草老人の物語なり
よめていひてその巻の長点をしるす
乃終りの書えしわけて平旦し

古才七絶

七

あふ

不見

元祿頃

續二百韻

未初調和評

一

雨ハ水ヤそる奔ハ物中

唐采

六夜ハ推子腸を

新良種

五詩ハ棟一大同ハ林子鄙園

白ゆ

五林ハ野人と傷子淑望

浮生

長新月子酒たつて漆栗毛

桃

五意悲ハ猿ハ移ハ賊雅

未立志

四芥指ハ屋の勢ハ白ハ物

舟竹

八かハ保ハ世トハ殿を刑

子英

^四和尙と利休、極奇な談話

礼巻

孫子雪より、^多流の氣味

^十一、^十流の氣味、病後存音物

一稿

^四所、^四の海々々神々、^五不貞室

後和

^五友、^五眼淚とら〜、^五の字乃二柱

詠居

^長性、^長昔ハ智を修し

節七

^四和、^四樂と名有る編と自然

和英

^長君ハ仁、^長を万物此、^長を意

蓬雨

^{十二}以、^{十二}月の第士川子、^{十二}船津多子摺

幽蘭

^四遠、^四秋を謎、^四の密流

丈岳

座付 金杯 長雅 旭志

一唯而已、〜未略



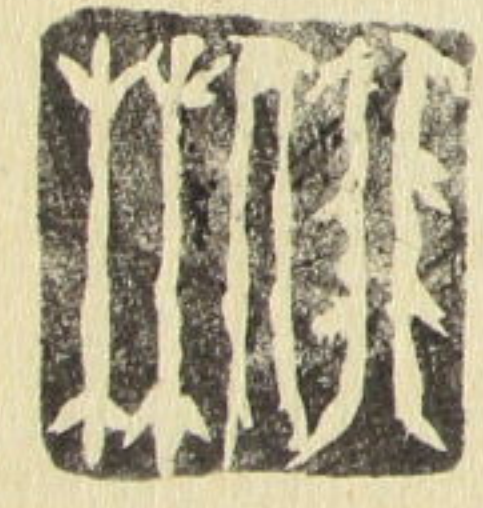
牛心

此所有印略

七十九

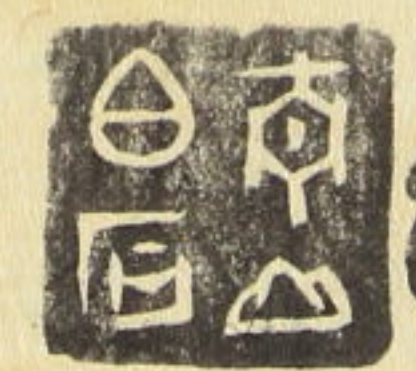
調和

朱印



三二草に根を... 今露月ト云
 識月

多... 五... 月...



探草

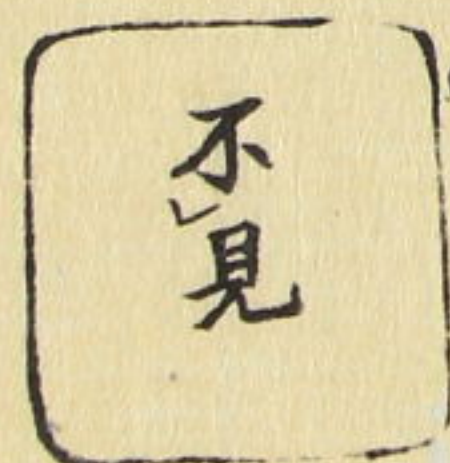
茶に味を付... 且... 吳竹



碎中... 朱書

此取点印譜略之

雪...



鳥
於天凡種、以泥之、沾涼外南紅

賜ヨリ畧

村市

鳥二鳥

鳥二鳥

鳥



朱
戸出—廿九歳—今百二十云鳥 周應

鳥

増後本之段本也

山

七十一也 周又

子美

飛石乃水口たすの流し加千楓



十乙張中

此間有印略

長一五

立志

花月



極

山吹の流し〜黄なる目好む外 正共

脇ヨリ略

残果云八句

印

天斗心

●通民 前山方

流し

山夕



録
昼形

二所白乃音
東巴

北村

照ヨリ畧

急田見九了

銀衣

彩衣

烏也

鳥也



調

六

山
丸く

丸く

調柯



考丸句

印

長

子



中

中

對揚

與乃間の務佛を足る思ふ所

宮川

千風

新元七

平字

長生堂の所

年七十四

介成

泰復

金魚袋

所祖の松を誦しむ

銘木

東隣

服する略

有銘

は獨

有子押

古白

秋翁

おののそと

うき

中

〇十四

朱
志之
常垣
雪朝

古
糸
之
一

輝
之
二

糸
之
四
五

半
之
長
十
六

為



珠
今魚路
玉宇

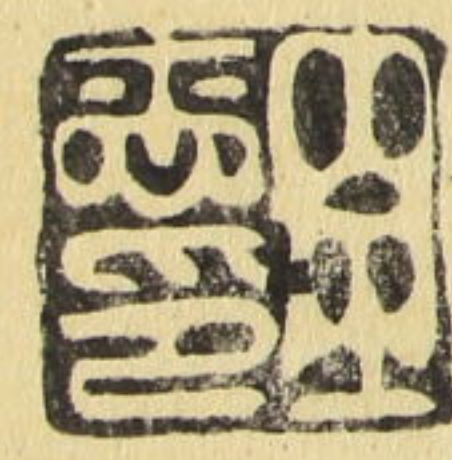


一
之
中

卷
中
之
三

長
一
七

立
志



三
代
目

下朱

うらむ書や海ありまきく富士の裾 宇田川 未工

百千鳥

雲々 餘等級

以貌

佳風



此集紙

凡乃夢と奈須め与市も五ツ 千翁

人比云和哥に作通神と云を是乃 系譜なりと

通と作ありの美の歌人乃花 沾涼

和歌無師匠唯以舊哥為師深心古風習詞 於先達下略

和哥、自然の發得の境界なき事、人の教よりの中略
習詞、於先達とあるは、この和の自然相違あり
ゆり、亦、通と云、作を先達の習の和の作ありと
云、義ししと云

○當時宗匠ハ添削一兩卷机下にありを
此ちしし終りの教

龜背

郭公法乃以和の中禪寺

中車

不見

九丁線

一巽丁也

不立了下身

法橋



大符の清をみるや如く

五百氏

浦 善 於

朱 上 世 於

四 長 一 一



威情朱 乘小毛不取操乃祀 布仙



存
一
序
子

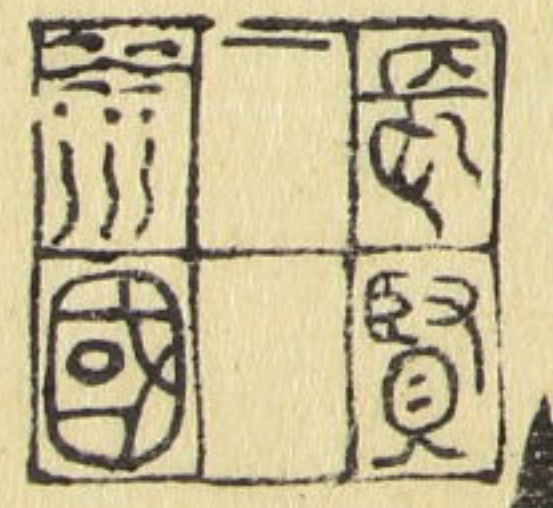
方
片

一
德

松朱 中 清 琴 也 朱 之 室 庭 乃 雪 梅 五

身
之
名
世

七
女
x
の

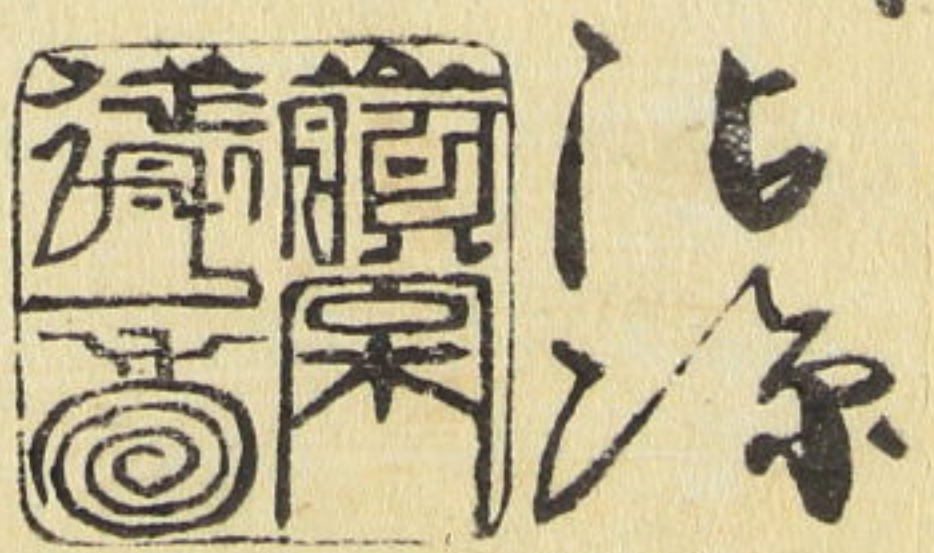


野... 繪... 具... 川... 包

國色

倫仙

火 燄 印



當時宗匠点印譜

次第不同

調和印

獅子

以辭爲用十五 兩朱七 長三 紅絲石十 朱五 九二

堀尾和推

玉姿

回文錦字詩十五 新月色七 花影上欄干十 回雪五 長三

栗岡貞佐

筑波山

珥比磨利十五 異玖用加十 衿菟流七 朱五 長三

樺井夕

彈夜月

天壽十八 金氣糲精十 丹頂五 立畏清風至十五 君子鳥七 長三

鶴海一漁

金精

映朱十八 銀輪影斜十 朱五 玉夫弄桂花十五 廣寒月七 長三

桐洲貞山

五更

四更十五 二更七 三更十 一更五 長三

内田沾山

神物護持順勺丹鳳十五畫中詩十風檣七 長三 稻川當国

簷花雨平 宗玉韻三 玉鵬八 孔彰五 無上室準勺 天心月廿三 寶玉二十 千珠十七 神妙五 秀逸十三 無極十二 大劫十一 銀漢十九 曜九 蒼溪八 立羽十 翁

羅浮夢十八 東閣詩情十 朱五 貴志活洲

水調歌十八 春江花月夜十五 清平調詞十 長相思七 朱五 長三 江川百洲

神慮感平 一種風流推国色十六 色典香疊十三 有玉声十 長三 瀨尾拙翁

頌滿耳十八 崑崙玉餘十五 乘水金十 千載觀七 朱五 長三 雲津水国

花重錦管城 楊彩二十 三光十五 車輪玉十二 黃禽十 三田白峰

無畫室准勺 天高月二十 化七 神龍十四 秀光十三 華德十二 有隣七 文戩十 賞雪九 枕書八 立羽不扁

其角印 一日長安花十 洞庭月七 曾湖十

半面美人 越雪九 長三 九二 筮家逸志

天地陽花平 清奇加五字 壽陽公至十 翰林賜錦袍廿五 玉堂雲霧窓平 金榜題石十五 帶金舞山

笑桃李七 朱五 長三 一枝挂十 黃甲七 朱五 長三 室鼎平 龍廿 鳳廿 秘曲二十 簫廿五 磬二十 三籟十五 呂律十三 宮九角七 羽五 長三 且立來川

屋敬十八

金銀

四字十

三字七 朱五 長三

長坂成屋

崑雪印

墜玉簪

百花加之

翠蓋

十九

探荷

醉中翫

百花嬌語

弄晚涼

探荷

櫻井吏登

夜梅二十

睡海棠二十 睡起美人十 國色五

挂二十五

未央妍十五 美孌人七

朱四 長三

菊岡沾涼

仰高鑽堅准 慎其獨二十 明德十七 志學十五 景星十四

慶雲十三 道愁十三 峻德七 至善十一 荷家九 脩身八 立羽壽角

九龍節十八

壁玉簫十五 洞裏神仙十

志村常仙

大乙壇七

朱五 長三

花生二十 泥書十八 五字十五 四字十

破中十八 夜光六 朱九 長三

打田今更

古音熾印

金声十八

薰風自南來十五 海棠七

長三

前田音熾

二妙二十 万斛香十五 月明美人朱五

花千天下春十 雪玉條七 長三

岩本乾什

沉香亭 月雪十五 三字月七 長三

五字花十二 雪五 九二

曾永機

五字順句 彭澤二十 孤芳十五 金玉錢十一

寒英十 晚節七 獨秀五 長三

今村陰威

隨唐十八 花街簫鼓月十五 露往霜來十

支機石七 朱五 長三

石川壺月

蘭奢待十八 千鳥十五 蓬山一樓雲十二

金玉翠珠十 鵜鴣斑七 朱九 長三

千豆尾谷

鳳銜十八 德高比君子十五 朱五 長三 潜水超波

石蓋山暉十 長州英七

季吟法印 吟市門人現 吟市又津見氏

兼海和尚 御直參限居

一僕とほくくあはく花えうぬ 季吟
寂つとや敷を前まきると梅 占吟市
一に節は木の葉そく移る歎道 今吟市

其角 堤亭下邑氏 苔翁右壽衣氏

東坡賢 現 堤亭奇 点印附属

つ雪とちりかき 笠の上 其角
くさりの風の葉むき 林の末 堤亭
くハ梅おひさく ねのくの 苔翁

人日

摺小本と遠里小壘乃菴うぬ 露沾

早春

まゝ魚や屋瓦淋しき東乃色 扇風
唯て今朝の残のなあり青乃雪 溶く

歳始ニウ

越前丹土郡西甲甲領

初嘉松羊乃身や琴出海 南花

沾涼門 北仙南

赤檜の白心やまのけいふたれ 貞桃

梁氏

奈と筆の速者をそりよ美葉摘 沾橘

沾涼門

よゝる士の朱心くるととくつ鳥 魚路

日門

初寅

秦姫編

并當をそくくもくや房り春 不水

梅 いさよーのり

梅活きて伴え流るる美揚る情くし
門番の海月いたるに梅の昼
くさくさや花の鏡の志のく人ぬ
正氣教音して又あはれむの心
娘のふほのよも聞や忘ら梅
吹通も梅の梅と中押

初午

午そくふさるるうみぶりの梅新ち
ふさふさや初午日和花波
とみらなす中た申る志の梅花
とつ午の申るふの梅花

芭蕉門

ト宅

雪朝

沾涼

有林

有林

沾賀

沾賀

一瀬門

梅宇

五百武

布仙

露人

露公門

上巳

桃吹く雛子うひて沓漉水
大田の蔭いしあり紙雛
能ふハ祚代のまの雛外
汐干く如女の物ぬよ一束
汐干外せめても雲の墓香
汐干の鼻息投し下まて
歩擁のよこよなまぬ汐干外
こころくし一重を折らも桃の色
龍まめ大津のまぬ汐干外
まの汐西川ちし安房上総
時津風加えて春の解びる

太平

竹裏

賀朝

携律

有佐

調山

快山

臣女

沾涼

魚路

紀逸

服部氏

交月人

貞佐門

一漁門

押 さい川

おのこを掃除さる柳外
知盛も出のへき浪や風柳
昔柳の梢を漕ぎ舟の袖
去年の荷をおりて動く柳外
風て朔少くころ廣き柳

花

夜振るるる白毒花
水橋の裏千入日如さく外
暖る尺子娘女の毒花
おのこも袖もさくさく柳外
柳外も子橋を枕の甲斐哉

芭蕉門

卜宅

雪朝

紀伊若山

沾涼

沾涼門

仙軌

倫

半田川氏

蓮之

北尾氏

未石

加島氏

好里

夕佳

佳

和歌才門

立鴨

七津洪水堂

節音

水産

落霞

十翁門

分角

其角門

李條

一

風

英

松

改壺竜

樓川

沾涼門

千洗

猪飼

垂棘

扇

的

柳外を矢張りし詠めう柳
千金の虫限もちりし花の香
抱へ今世主のさくさく柳外
汲み花の何雨らの風を水車
沙瀬の風のさくさく柳外
三月月を色えてさくさく柳外
さくさく目い枝を扇多し柳外
左 名上野乃水
見付く通事とかきし花の香
花の色昔聖子笑う人の者
大佛の存りの孝の山作久
柳外も子橋を枕の甲斐哉

門を全くと合もつらぬさう
りやう仁王を寄るさう

清うまゆ

卜宅
梅五

舞中一まの飛のまのさう
ふ門と飛のまのさう

白魚

魚路
五百武

去る魚や一流子流聖の丸
去る魚や一八王子
星を焚く去る魚

生植

雪朝
千洗
一店

若柳や一毛の流部風古衣折
水抜や一凡も惜す一春の心

琴月
梅宇

雨子文妙を綴る清く
負人の力痛き一独活の内
安養聖や去る魚

ふれのおる

賀朝
安祖
沾瑶
丈岳

菜の花や一初宿
勢多の末を去る魚
菜の花や余り一離れ井の里
菜の花や照了帯

氣形

あ申しとを助けて田の
うらみすや人の集舞馬蹴

沾津
東止
梅五
之
逸志
調柯

井戸梅乃いとしくきききききき

露公門 露庭

空のうへに虎溪ありぬひとら外

和列郡山 云々

菓の字子昼の園唱かたら外

孤中亭 其悠

秋層の紙屑と如海丁の如

露公門 快山

番祿算し金運あむもの如蝶の如

水戸 沾渡

何よりの蝶のやうや牛の靴

希聽

尚世の襦そくは漢家のむしり

福科氏 菊千

ひし浪らしを下流の流をくめ

雑 春 題 五 首

田鼠の身は只今うらうら

未石

ふみ背負ふ桂や和泉の藤田まで

江戸八 周皎

心の女の笠おもしろき鳥の如

只口

良薬は牡丹の心ある聖徳の如

賀朝

出たりやうきよの浅きぬか子摺

信州松平佐 三省

よき友の麻すく細の芥うら

夕顔亭 云々

大名の表乃中やうき瓢

水音

そめやおもしろなる福ら上戸

御柳

心細入や侍ま外の魚千里

和歌山門 立儿

天満宮法案 武旦左郡 蕨宿連

筆鏡子柳り梅やゆり名り

挑舟

神垣の五教喫しむめの輪

万里

大名の味や者物務乃板

李冠

沙籠をや百人切のしめ板

李角

貞徳門 松本軒門
 ●正勝 宮田氏 正徳 長子 正興 長子 正全 長子

正勝

正徳

正興

正全

東巴

詞仙 賀明

二月十日 亥時 花は真浮海
 蜀江錦をくくじ 鶏
 感宮の煉情 志は深く啼いて
 駕籠のよきと見る 福人 此後
 河風小わが 柳のふらふら
 芝生 一 新畑の星 石
 大く 水晶輪の化け 仕業
 やどの 辺 一 舟のふらふら
 去 一 城 築 一 一 合
 格 気 の 味 一 押

くくくー一悉の被と夏ぬここ
 ころても月ーやぬ様とこ出
 混沌と逆祥ー入川口屋
 布袋の沙汰とる産土神
 相物のきよいあやこそから星
 瓦礫の城らにるも家
 良ぬの素味を軍や赤雲
 ーへここ子藏王堂浮
 化華ー鐘吹切らし命し
 あぬるいさうんても鯛
 統子と幸味志海邊の魚死

小町の果を十月の菊
 世の上をぬとささるる器
 井ささ心の縄三とふ遠
 番所ハ坤皆新よがさう星
 酒吞童子の華小大部屋
 義盛の荷前て一家の定焦撰
 程ー被さうをもも代
 姐板に万敷躍る十三夜
 気子入店江突も花ハ蓮
 此の舌フさす人知若あゆを
 葉茶真ー一於柄の果

寛永の繪品の如く所成風
 芝居を及ねしお入ぬ金
 花なまや人の草冠をもちて
 一とぬ伸るる業は心吹

其角

杉尋久米田氏押塘 嫡
 藤堂家ノ醫 享保十四西上月平 同家醫
 沾涼三物組 沾涼三物組

長閑さハ生ハ海の表人 吉人 杉尋

ふ工希ゆきのせなり 時多 賀朝

昔の東もくくえぬゆの異さ外 不蘭門吉田氏 賀角

未得老人の祖母の意又く沾涼子今
 其悉を濡さしあり因て末の一字
 をとりて淋衣をぬるのこ 邑里堂

其衣を脱ぎてぬる新樹の如 未石
 汗は汗とよれ 藍の 唯ぬき
 底ぬし此床しふをうとして来て
 こそぐんやとひのやうに 酢
 糸際をともく月ハ東男
 あうぬきせ居 雀 二夕 役
 鶏既の案ハ雨と海 忘 濟子
 女房乃 痞 精 共 在 入 せ
 澗 一 かい 船 も おとこ も を 替
 黄 心 く さ ぬ 一 着 一 や ぬき

言^魁と日中^魁と云々
 是しらの紙の久遠尺^魁重^魁
 新^魁也^魁松^魁を^魁報^魁の^魁巴^魁月^魁の^魁松^魁
 白^魁髪^魁如^魁き^魁老^魁い^魁と^魁年^魁と^魁有^魁の^魁白^魁
 少^魁と^魁の^魁折^魁と^魁と^魁の^魁白^魁
 鬼^魁の^魁一^魁ら^魁を^魁む^魁と^魁深^魁お^魁ご
 浪^魁の^魁極^魁と^魁も^魁あ^魁か^魁て^魁並^魁比^魁須^魁信^魁
 時^魁中^魁の^魁者^魁と^魁是^魁我^魁聞^魁後^魁
 驚^魁筆^魁の^魁止^魁と^魁い^魁と^魁い^魁飯^魁次^魁

漢^魁茶^魁座^魁の^魁を^魁た^魁馬^魁橋^魁と^魁大^魁桂^魁馬^魁
 干^魁浮^魁を^魁見^魁と^魁る^魁水^魁の^魁ど^魁り^魁少^魁
 白^魁心^魁赤^魁と^魁解^魁と^魁る^魁を^魁の^魁子^魁を^魁赤^魁百^魁
 多^魁葉^魁新^魁入^魁と^魁り^魁折^魁と^魁る^魁松^魁林^魁と^魁
 深^魁文^魁子^魁殊^魁極^魁め^魁と^魁る^魁解^魁毒^魁丸^魁
 一^魁つ^魁の^魁子^魁を^魁と^魁る^魁の^魁面^魁赤^魁
 風^魁子^魁赤^魁座^魁の^魁素^魁面^魁と^魁る^魁月^魁出^魁
 大^魁乃^魁と^魁る^魁を^魁と^魁る^魁あ^魁と^魁る^魁霜^魁
 奈^魁亦^魁子^魁初^魁言^魁ぬ^魁と^魁る^魁決^魁と^魁る^魁
 鞠^魁の^魁あ^魁と^魁る^魁菓^魁子^魁と^魁る^魁埋^魁と^魁る^魁
 等^魁の^魁場^魁を^魁鳥^魁の^魁達^魁と^魁る^魁白^魁大^魁津^魁
 晴^魁と^魁る^魁大^魁根^魁唐^魁と^魁る^魁の^魁竹^魁合^魁

人店のそと沙覧し勸学舎
みまごつて三月の湯気

貞徳門
●●未得

可曉 宇田川 奇学

可信 日苗 奇学

未石 日苗 邑里堂

子
未珠

式友の事とてまのりて下坂の門の報さし
下坂の報治の係をさるる報さるる
下坂の報治の係をさるる報さるる

あまのり二所さるる下坂の門の報さし
報治の貞徳

垣よき丸のなるしを

可曉

酒裁てまかそさるる報さるる
あまのり二所さるる下坂の門の報さし

可作

相親を役したりおかし湯合の留まらぬ

朝顔とあけ 夏草を丸外 未石

郭公

初夢の火加熾ゆるし時多

吟市

中々まは蛙千返あにや

當国

四星を吾の初親流しつ時多

賀朝

雲に消へるありそやほとま

涼門

し風

あまのり二所さるる下坂の門の報さし

鶴史

あまのり二所さるる下坂の門の報さし

洞曉

李條

髪結子服をまきせつ本と守

不局

古竹

ほろこまは扱を枕る老角力

有

夕佳

そ思まぬ報治と五人蜀狐

扇

的

傘をさす一樹の陰や時多

太平 竹裏

赤堀の通船乃予るるる

くふすの通船素性おとる

沾涼

玄石千日酔

おの我度つゝき帰らるる

秦姓 又 岳

市中一郭云

聞人やうく時多二聖店

松濤舟 魚路

船形ハ多の船行保くま

沾涼門 涼之

たふさく茶にも酒あり時多

未立志門 如夕

静身よましく聞せし 聖帝

日門 愚舞

雨をや冬人少中しく静ら

日門 風志

曉を滝子ましく世帰るる

風女翁 杏白

又

杜宇鳥おの 冥途のまき

不扁

たぐく戸の窓下のまきわき

梅五

通にあり英法へる渡より杜鶴

布仙

藪越しの海に時多

伊賀上 倫山

いゝまゝ水ありしとき時多

赤五 原お

鯉

今海ありしを此海浪やまの鯉

沾涼門 五百武

通し矢のまきのまきしつり 鯉

涼宇

藍水色いまきし 柳をけ

布仙

すい浪子まきをけしやまの鯉

露竹門 周鮫

鯉如沖津時多 柳をけ

沾涼門 古竹

純屋の戸のありしとき年一柳

古竹

海を出て海より舟一とらひ
宇治川の依くは梶系とらひ

沾涼門

風

螢

色買ふ八百屋の紫菀の螢外
身あふりの吹賣とらひ海より
まじかきとらひ尼の毛麻の螢外
秋の暮なきとらひ深束の螢外

露門

文岳

志村氏

快山

沾涼

蟬 六月

帆柱の蟬の音をきく尾千里
降をきく糖よる心や蟬の登
棧ふるふるの本陰や蟬乃登

谷田

賀朝

水戸佐

英松

沾鱗

端午

とゆくの珠言あつち柳條
曼珠丹後の母此後あり

柳宇

夏日

印肉のともをわん月よの異子外
海をんで候くもなきあつち外
風風て風呂を吹するあつち外
あつちとらひ牛のつとらひ切通
花りあつち荷の曇り油照り
ちん海りと比豆尼のあつち異子外
一月のあつちとらひ氣のまつち外
一柄抄岩根をたたくあつち外

琴月

沾涼門

沾蝶

不鳥門

珠角

批新門

中車

沾涼

照仙

芦葉齋

乙風

菊千

蓮

かとうきのけいあけやふくの蓮
咲を及く根の葉もまじり蓮の
風さ先て星の居りの蓮の如
十とくしを折し平く蓮の指
欠こむる蓮の巻葉も森光外

東巴
鶴史
好夕
周午
冲而

生植

五文字のさうさうさうさうさ
筆や花をさうさうさうさ
日く乃作ゆりや時ゆり
いふらん牡丹の葉も柳もあは
宵の雨ぬ六つ七つ花あや先

一漁
調柯
推
梅至
市紅

昼影や清き坂のまはれ何ら
郊百合の目まぢいとお懐子
去羊足一乃子ゆりあはる葉も
藤葉常道て流ひさうり花葉
咲折る人も人しかならさう
六とくの水の水すし 胡青田

其角門 一風
楚株
調山
沾涼
丈岳
志楓

舟のくぬや花をさうさうさうさ
舟乃花や真田う丸の胡海を
初風や綴いさうさうさ 西東
蓮葉の山 甲州宗匠
備てなす信て花を 甚あふ

石町 安祖
露門貞子堂 露喬
沾橋
萬丁

雜夏

あまのりく遠きまゝの夜く
はるれや物事まゝの夜まの長
親一合清の遠く丹波の海

東潮門 宗瑞
五山

東隣

莊子に於蝶のまやり

硝子の魚く化しより蚊の音
鈴ぬきや世も貴の地加城
ゆきいせも世も別く秋扇の

露門 皓魄堂

月門 有露 露庭

小島氏 雨 桐

千鶴門 有月堂

月門 枝月堂 隣 角

月門 陽月堂 葉 角

月門 江月堂 岷 角

景清の蝶くく蝶の響くを
其影の海士の清てつ田子ぬ不三
ぬくくや赤のまの涙れ市お海

浮月

五月や二十の孝て兄の男

水戸相畏 沾 隣

功法池乃志く夜を字と法あり外

日品 沾 瑤

遠きるるといふあめく星浪のぬふ

宇都宮青山氏 立 鴨

果報子の冥人のあふ解の繋

和歌才門 幾 水

天世のなまはけまらやととあふん

和歌才門 紫 筍

そとこあふぬ冠をきくハ田植在

未 石

柴の戸ハあふふくくく田植外

梅 立

あふ隊の彩色て秋田くふる

布 仙

そとと後のもまれ味あり夏なる庭

五石武

夏の東やまをいかりく流ひ發

原之

誰居とねくもまきふる妻の風

甲州産若葉歌 乙 風

服部氏女 臣 女

神の孫よ其意守りよのそ 千翁

神祇 鯛のつらつら神の留之居の狭箱
釈教 一文も難陀抜泡を下物

玉一こよふてらう

懋 業平も大豆を蒔きよも
無常 かは河にた摺のりあるも死天の空
述懐 女房にも後を足せよ妻水の

夕乃遊 四季 梓沢巴雲

松 解く氷打目流しや松の雪
挿 月あまのや鞠をまきと其柳
撰 葉の秋を散るも桜の暮をうぬ
訊くつ 水もや雷のあゝるを机流

題 冬川 奇仙

いふといぬ舟の情さるる冬川	五百武
さびしき水車の雪降るる雪	治涼
尺通の鐘も尾上とも明て	倫仙
茶の種餅くじとりの初よき	梅五
當年も此辻番の葉鶴既	五百武
詩も作しよき 龍乃葉内	倫仙
秋日よはう称したエのがし鳥帽子	々々
從羅川へ出し志事する身は	五百武
紅粧のよ一園をぬき指の跡	々々
同屋の長者五尺まぬ板	々々

湯げきら七考よまふさくそ六部
 じし作里のまよかき併
 御油赤坂園崎池裡朝の海宮
 龍譚を止る 紅毛の帳
 雪とかなる花の雪落乃 匂よなり
 夕さきをさのましかりよ去う如
 月おほろ芥生のの里もさやう
 袖にあやし付のりぐ 留
 田楽の十さく染淡みらん
 下目を杉し中へ一月
 白も成ねの輪切りの座巻の
 時代よかしの暇乃乃行

備仙
 立石武
 備仙
 立石武
 備仙
 立石武
 備仙
 立石武
 備仙
 立石武
 備仙
 立石武

遊ッよみかくお素顔そあまそた
 る舞作茂菴さくまふつ
 井慶のま室小室乃油背
 不破とい漏しと事か子の傘
 雲吹い梶原龍勝兎城乃雪
 下夕へく多りとはあつんの鳥
 赤衣天切りよ月いちねんと紫
 三日り着の嫁乃まの沙
 能国の字句おらよけ 凡
 仔細の晴きして盆よ版粒
 田跡いあくらふのよむおとあり
 苔もそあらく 秋の堂 形

備仙
 立石武
 備仙
 立石武
 備仙
 立石武
 備仙
 立石武
 備仙
 立石武
 備仙
 立石武

酒志海もあゝ男、花の文 偏山
去乃白ひり今跡の鐘 換五

師不知
得入 小沢氏 季吟門 長子同苗 現 尺 長子同苗
始孤吟下云

昔柳の海のとりとのをかき 得入

秋乃雲富士をいんくまな海星り 古ト尺

一帯一足志きり 萬浦如 今ト尺

芭蕉翁東都よあて如く後をさし 古ト尺の中りて

換留袖

伴寄小所 式アも換の中り合勢 沾山氏 沾師

沼原万句享保十三丁未三月十七日

湯治天満宮社世にかのく無り

礼物不受 座料

賀

い〜〜や北中乃下如きみ〜 典路

履味や伸へて子尋乃風北也 五百武

山あ子ハ万句無りの起立

花子尺よ今羊一万葉百千台 湖十

蔓長〜ハ乃履浪神ハ池 佳風

花子尺〜苗出千も〜和菊ハ松 潭北

香久ハや神代ハ換〜通津ハ 露牛

而免清き千園子唱ハ弟を崔 吏登

連鞠ハされても坊主中るる如
十二層のわしをわしの新しき
毫よるは藤江乃く如北據
笠場や土のてし子あふ柔
松を法中にかじあり花の門
卦を身じし藤新敷とほし
よ柳あり花の下く人北風
世よ鳴きし藤あまし花の時
程かしくまうまこれ口へて井
例室子こくハありの葉を産
やうそあを不二のくくあつる菊

一漁
連歌師
丈裳
枕翁
當国
沾山
白雲
百里
雨橋
節士
東巴
露月

初や今不二の襟りと為草
月よりれそあまもみ葉れか根
霞のつ一雨満花時津風
大島の息もさくく日初外
葦の牙の力を欠する入泉
うらふすの山そふをみ葉をを
是霧や夜も葉曲の花出り
松の根の海ありやうを船さ
芳しき草にありやあふ花
赤く廣を寄に人きし鶴乃松
雲子入るると並如や筑波山

丈草
未石
八十店
巾車
東岡
仙杏
吳竹
涼之
倫仙
紅夕
雪朝

苗代に臨み新さるるあり 黄十

波子もれも小きうをひたれ 暁漸

水さりや一尺二尺 鶴乃足 出紫

花乃口一方白の序をう 孤舟

今日の夜級あり 雑子の香 林潭

未久一縁とわたり 蓮の幅 仙魚

かけくや筆の玉子の雲 緑 沾友

極へて菊や 毛万二千句 桃舟

○當日如岸一凡百余人かめく賀白あり

羊金さるるも大くはなより大なり 如十之記

おやけりき中巻袖

